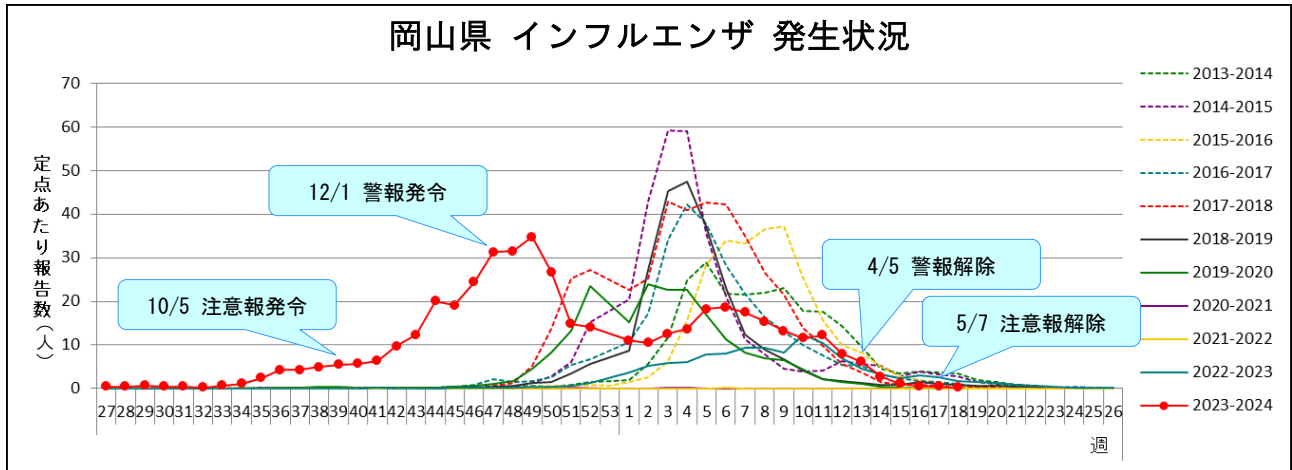


# 岡山県 インフルエンザ発生状況

## ( 2023/24 年シーズンのまとめ )



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

### 2023/24 年シーズン(2023/9/4～2024/9/1)のうち、2024 年 5 月 5 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、37,253 人であり、過去 10 シーズンで最も多い報告数でした。注意報発令のなかった 2 シーズン(2020/21 年および 2021/22 年シーズン)後、3 年ぶりに流行した昨シーズン(2022/23 年シーズン)を大きく上回る流行が認められました。

昨シーズンは第 21 週(5/22～5/28)に 0.87 人、第 22 週(5/29～6/4)に 0.57 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、「インフルエンザ注意報」を、6 月 8 日をもって解除しましたが、注意報解除以降も患者の発生が続き(最少で第 24 週(6/12～6/18)の 0.18 人)、第 34 週(8/21～8/27)には 1.11 人と、定点あたり 1.00 人を超えて今シーズンに入りました。

岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回った後、第 39 週(9/25～10/1)には定点あたり 5.50 人となり、更に増加傾向で推移したことから、10 月 5 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンと比較すると、最も早い流行期入りであり、その後、流行が徐々に拡大しました。

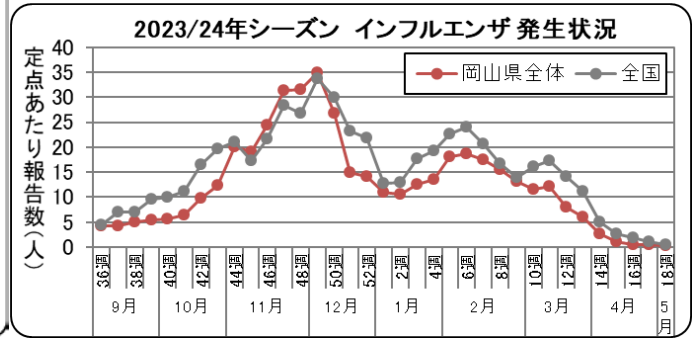
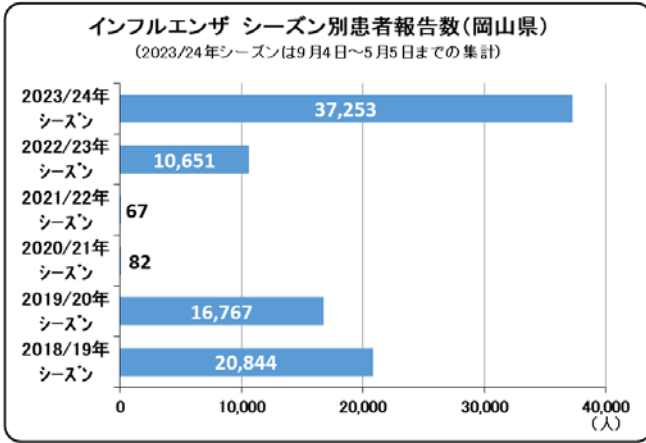
第 47 週(11/20～11/26)には定点あたり 31.35 人となり、警報発令基準の 30.00 人を上回ったため、12 月 1 日に「インフルエンザ警報」を発令し(2019 年 1 月以来 5 シーズンぶり)、更なる注意喚起をはかりました。

患者報告数は、第 49 週(12/4～12/10)をピーク(2,923 人(定点あたり 34.80 人))とし、減少に転じました。しかし、年末年始の時期に下げ止まり、1 月中旬頃から再び増加傾向となり、第 6 週(2/5～2/11)に 2 つ目のピーク(1,565 人(定点あたり 18.63 人))を経て、以降は緩やかな減少傾向で推移しました。

第 12 週(3/18～3/24)には 8.02 人、第 13 週(3/25～3/31)には 6.07 人と、2 週連続して定点あたり 10.00 人を下回ったため、警報から注意報に切り替えました。その後も、減少傾向で推移し、第 16 週(4/15～4/21)には 0.55 人、第 17 週(4/22～4/28)には 0.40 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」は、5 月 7 日をもって解除しました。

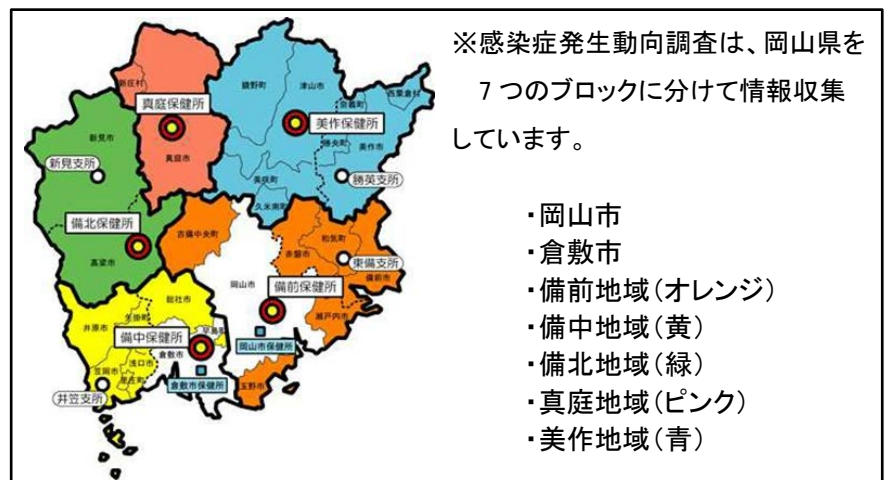
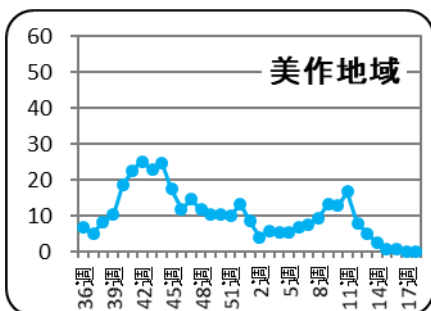
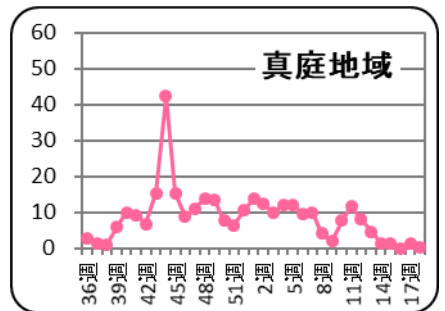
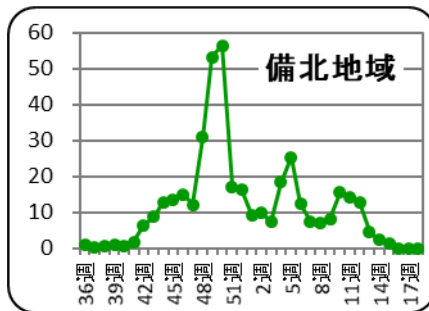
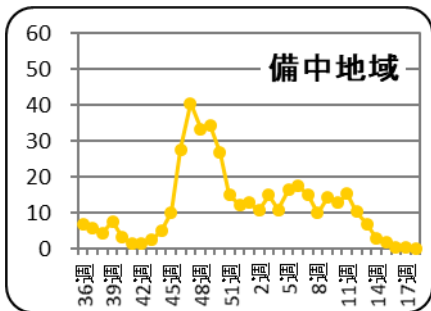
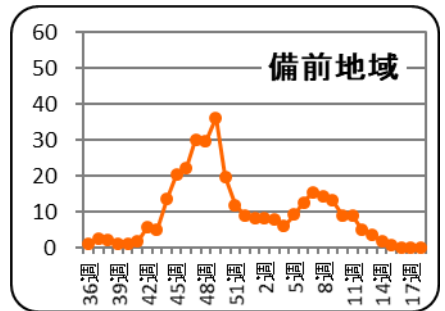
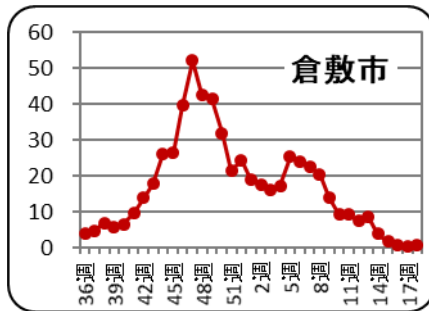
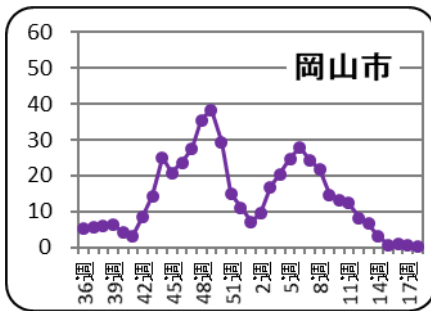
全国では、昨シーズン、全国的な流行の指標である定点あたり 1.00 人を 2022 年第 51 週に上回ってから、同シーズン中に下回ることなく、今シーズンに突入しました。第 49 週(12/4～12/10)に 33.73 人となり、流行のピークを迎え、さらに第 6 週に 2 つ目のピークを経て、緩やかに減少し、第 18 週(4/29～5/5)には定点あたり 0.45 人(2024 年 5 月 8 日現在)まで減少しました。

今シーズン、岡山県は全国と同様な流行の推移が見られました。



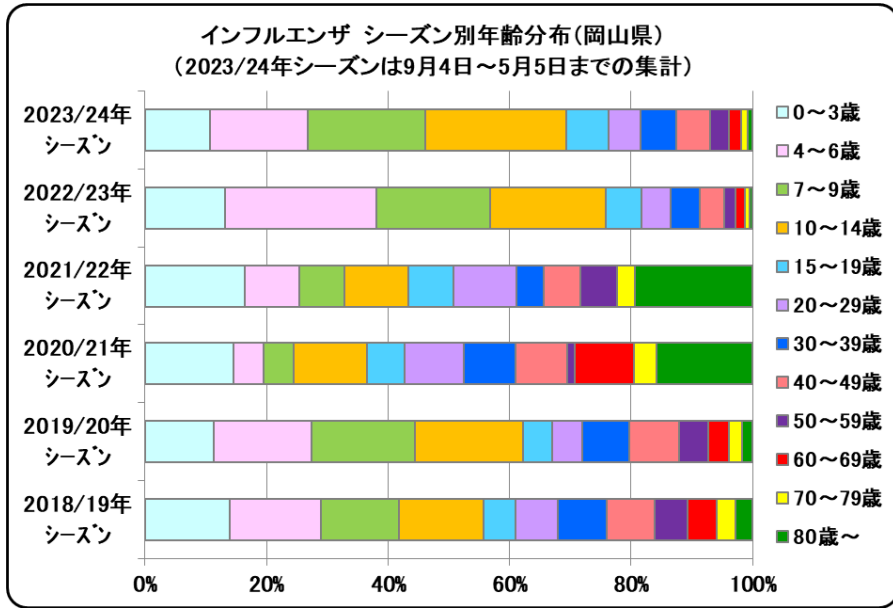
## 1. 地域別発生状況

地域別で見ると、シーズン当初から全ての地域で患者が報告され、2023年第36週(9/4～9/10)時点で流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超えていました(4.30人)。その後、患者は増加を続け、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市38.32人(第49週)、倉敷市52.06人(第47週)、備前地域36.13人(第49週)、備中地域40.58人(第47週)、備北地域56.50人(第50週)、真庭地域42.33人(第44週)、美作地域25.20人(第42週)でした。多くの地域で2月頃に2つ目のピークが見られ、流行は二峰性に推移しました。各地域でピーク時期にばらつきはあったものの、ピーク以降は増減を繰り返しながら減少しました。



## 2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、10～14歳(23.1%)、7～9歳(19.4%)、4～6歳(16.1%)、0～3歳(10.8%)の順で多くなりました。

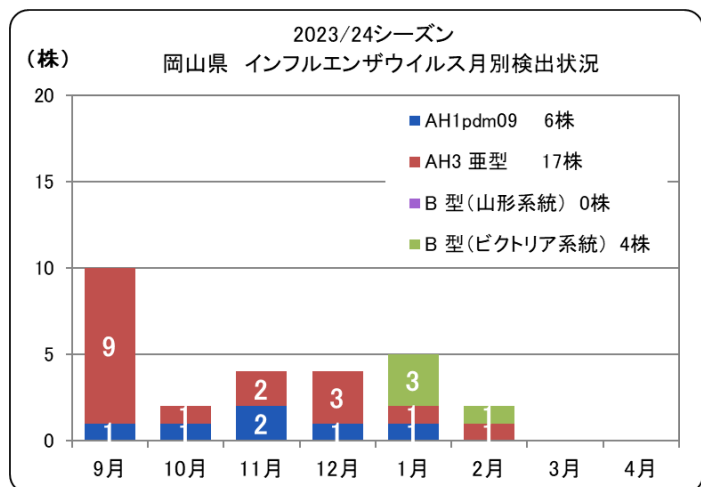
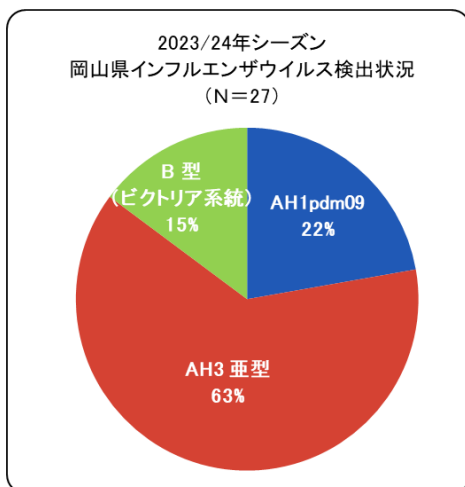


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

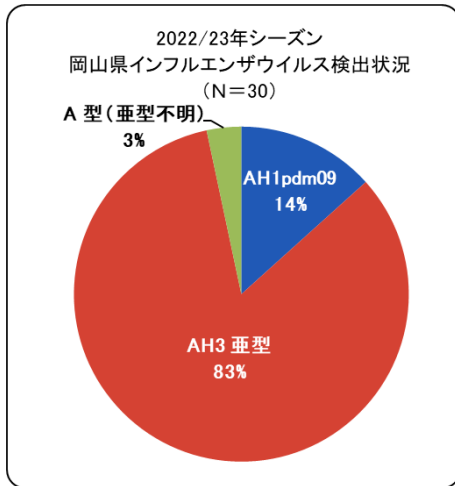
今シーズンのうち、2024年5月5日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス27株の内訳は、AH3亜型が17株(63%)で最も多く、次いでAH1pdm09が6株(22%)、B型(ビクトリア系統)が4株(15%)でした。今シーズンの主流株はAH3亜型でしたが、1月中旬頃からはB型(ビクトリア系統)も検出されました。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3亜型 3,176株(50.6%)、AH1pdm09 1,738株(27.7%)、B型 1,343株〔ビクトリア系統 1,310株、山形系統 0株、系統不明 33株〕(21.4%)、A型亜型不明 13株(0.2%)、C型 1株(0.02%)の順でした。今シーズンの主流株は、岡山県と同様にAH3亜型でしたが、2月頃からB型(ビクトリア系統)が主流となりました(2024年4月30日現在)。

### 【2023/24年シーズン】

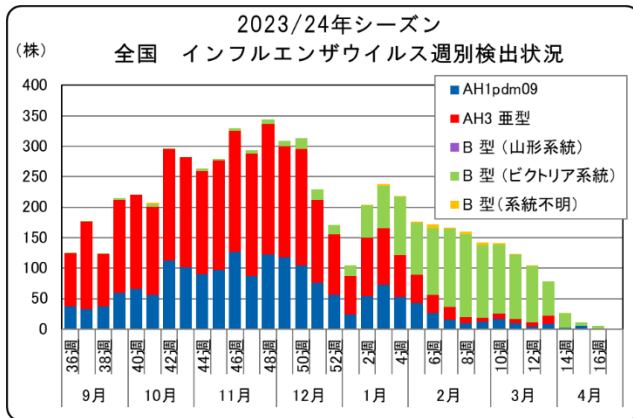
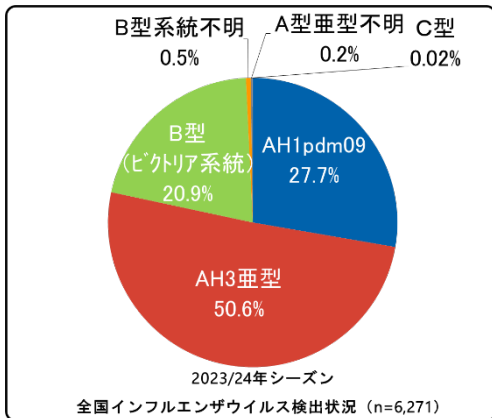


【2022/23 年シーズン】

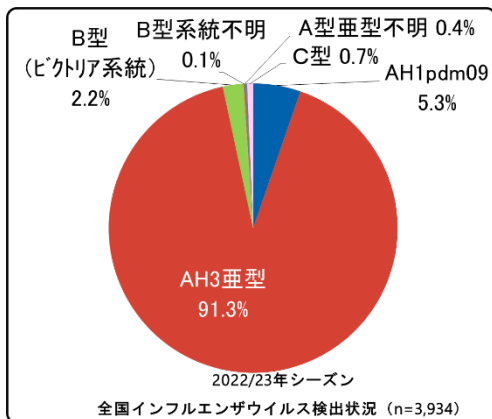


<全国のインフルエンザウイルス検出状況>

【2023/24 年シーズン】



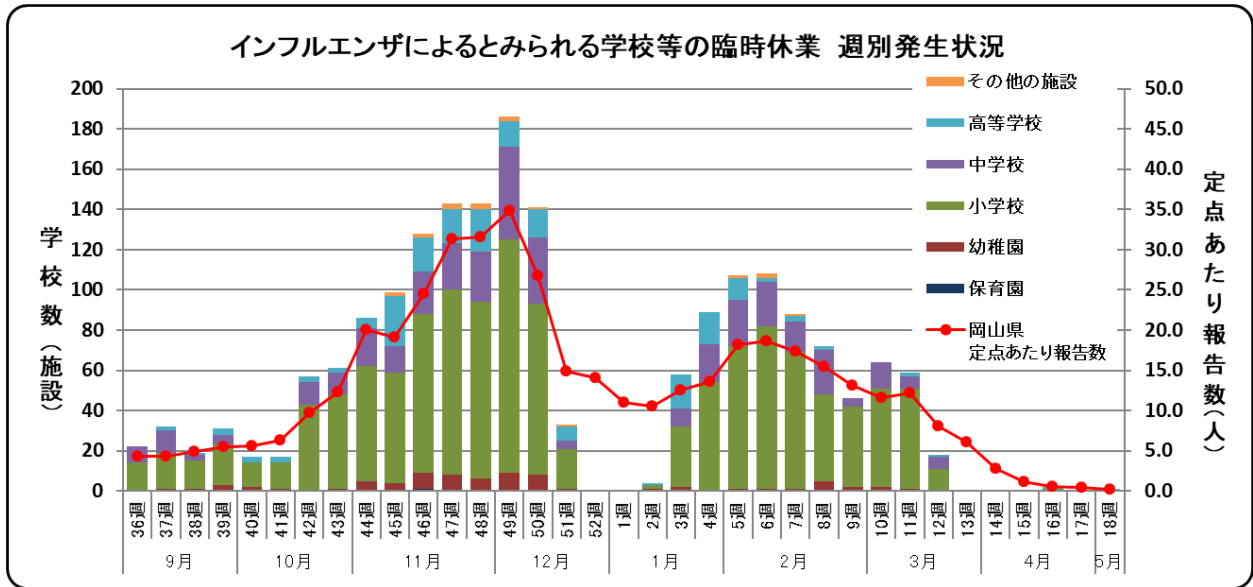
【2022/23 年シーズン】



[インフルエンザウイルス分離検出状況 \(国立感染症研究所\)](#)

#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2024年5月5日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は、1,931施設で、昨シーズン(315施設)と比較して大きく増加しました。施設別では、保育園1施設、幼稚園74施設、小学校1,273施設、中学校372施設、高等学校193施設、その他18施設でした。初発はシーズン初日の2023年9月4日で、昨シーズン(12月12日)よりも早い時期の報告となり、今シーズンのピークとなった49週には1週間に186施設の報告がありました。



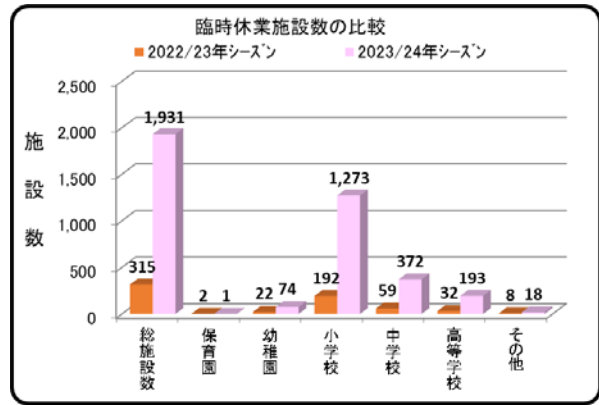
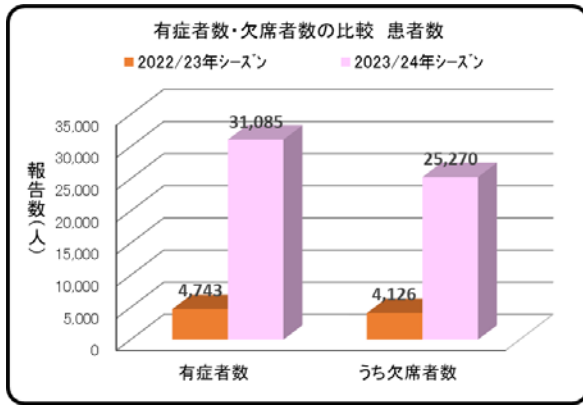
#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
<b>岡山県全体</b>	<b>31,085</b>	<b>25,270</b>	<b>1,931</b>	<b>34</b>	<b>439</b>	<b>1,458</b>	<b>R5.9.4</b>
岡山市	12,220	9,967	732	6	47	679	R5.9.4
倉敷市	7,533	6,265	434	4	42	388	R5.9.4
備前地域	2,946	2,349	205	6	79	120	R5.9.4
備中地域	3,467	2,702	230	3	92	135	R5.9.4
備北地域	926	749	65	6	32	27	R5.10.17
真庭地域	636	482	28	4	18	6	R5.10.26
美作地域	3,357	2,756	237	5	129	103	R5.9.4

#### 2) 臨時休業施設数の内訳 累計:1,931施設

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	1	74	1,273	372	193	18



## 5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5医療機関による報告)

今シーズン、2024年5月5日までのインフルエンザによる入院患者数は、206名であり、昨シーズン(38名)から大きく増加しました。週別では、第50週(12/11~12/17)に入院患者数が今シーズン最多の18名となりました。70歳以上の入院患者数は、56名であり、入院患者数全体の27%を占めました。10歳未満の入院患者数は115名であり、入院患者数全体の56%を占めました。また、インフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県では2名(2017/18年シーズン:4名、2018/19年シーズン:3名、2019/20年シーズン:6名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:0名、2022/23年シーズン:2名)と、昨シーズンと同様に新型コロナウイルス感染症流行前と比較してやや少ない報告数でした。全国では、インフルエンザ脳症の報告は183例の報告があり、昨シーズンから大きく増加し、新型コロナウイルス感染症流行前と同様の報告数でした(2018/19年シーズン:231名、2019/20年シーズン:255名、2020/21年シーズン:0名、2021/22年シーズン:1名、2022/23年シーズン:43名)。

岡山県のインフルエンザ脳症は、インフルエンザA型を病原体とするものが1名、B型を病原体とするものが1名でした。全国においては、インフルエンザA型を病原体とするものが65%、B型を病原体とするものが23%を占めており、B型を病原体とするものは全て第2週以降に報告されました。

【2023/24年シーズン(2023年9月4日~2024年5月5日)までの入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	17	33	65	9	5		1	3	6	11	22	34	206
ICU入室		1	1		1			1	1		1	2	8
人工呼吸器の利用			1					1				1	3
頭部CT検査(予定含)		2	1		1					1	5	5	15
頭部MRI検査(予定含)	1	5	9	2	1					1		2	21
脳波検査(予定含)		1	7										8
いずれにも該当せず	16	26	51	7	3		1	2	5	10	16	28	165

\* 重複あり

